

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

669-374

事務事業名	環境にやさしい交通社会形成事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	水道環境部	課等名	環境課		包含する細々目	1	7	1	6	15	3	
政策	5人の営みと自然・環境が調和したまちづくり											
施策	57省エネ・新エネ活用の推進											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	済み	関連計画 条例等						
		事業期間	17	年度～	年度							

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	市民、事業所・行政	飯田市の人口(人) (19.2.1現在推計人口)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする
			107684	107684		
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位 公共交通を利用する 市民バスの利用者数(1月までの利用者数による推計)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		最終目標達成年度
			成果指標の数値(実績・目標)			
		18目標	100000	最終目標		
		18実績	100506	19目標	105000	↑
		23目標		23実績		最終目標達成年度
		18目標		最終目標		
		18実績		19目標		↑
		23目標		23実績		最終目標達成年度

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	ノーマイカー通勤の推進	ノーマイカー推進方策研究会の実施 エコドライブ推進月間の実施(5・10月) ノーマイカー通勤の促進 アイドリングストップなどの環境にやさしい運転(エコドライブ)の促進	参加事業所数 参加者数	5月 98 10月 106 5月 6,193 10月 9,156
	18年度の実績			
	19年度計画			

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	100	
	事業費計(A)	100	0
人件費	正規職員所要時間	18年度 200	19年度
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	715	0
	トータルコストA+B	815	0

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	地球温暖化原因物質の削減	エコドライブ推進月間のデータによる、CO2の削減量(トン)	現状値	165	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
		22実績		23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
飯田市環境計画における脱温暖化対策の実施	平成16年から市内事業所、公共交通事業者、行政によるノーマイカー推進方策研究会が設置され、ノーマイカー運動が展開されている。 平成17年10月には地域の38事業所が参加し、ノーマイカー推進月間に取り組んでいる。 平成18年5月と10月にはノーマイカー通勤にアイドリングストップなどの環境にやさしい運転活動を加えたエコドライブ推進月間を実施し、ともに約100事業所が参加した。	脱温暖化対策として、自動車排出ガスの削減を推進する要望、意見が強い。

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由) ・公共交通を利用すれば自家用車の使用を少なくすることができ、エネルギーの使用量を削減することができる。	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由) 推進月間だけの取り組みでなく、日常的な活動として展開することにより成果を向上させることができる。
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由) 事業所の協力、地域ぐるみの取組みにより公共交通の利用の推進を行なうため。		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由) ・CO2排出量の削減が出来なくなる。
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由) 公共交通を利用することで、エネルギー使用量を低下させることができる。		他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 統合可能 (類似事業名、理由) エコライフ活動の推進など、他の環境関連施策と統合することが可能。
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由) ノーマイカー・エコドライブ活動が市民運動として定着するまでは市が関与する必要がある。		効果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 不可能 (その理由) 必要最低限の経費で実施している。
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由) 受益者は市民であり、最小の経費で実施しているため、負担の程度は妥当。

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	実施年度 平成18年度において終了 平成19年度以降は、環境政策全体の中で振興策を実施する。	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法		

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？		

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	